

弾く楽器について考えてみよう

〈世界の弦楽器の仲間たち〉



1 リュート



2 マンドリン



3 クラシック・ギター



4 ウード

5 ピーパー



14 カーヌーン



15 グージョン



16 カヤグム



9 びわ



6 サンシェン

7 さんしん 三線



8 しゃみせん 三味線



17 そう 箏(こと)



10 バラライカ



18 トンコリ



11 ウクレレ



13 チャランゴ



19 アパラチアンダルシマー



12 バンジョー

楽器について

- ヨーロッパで中世～18世紀にかけてよく使われた楽器。
- 現在の楽器は17世紀中頃から使われているナポリ型。弦の数は8本(4コース)。
- 現在の楽器はスペインで改良されたもの(▶ p.28)。
- アラブおよびトルコで使われる。
- 中国の楽器、漢字では「琵琶」と書く。右手の指に爪をつけて弾く。
- 中国の楽器、漢字では「三弦」と書く。
- 沖縄および奄美の楽器。

- 日本の楽器。(▶ p.44)
- 日本の楽器。平家琵琶、筑前琵琶などがある。
- ロシアの楽器。弦の数は3本。
- ハワイの楽器。弦の数は4本。
- アメリカのディキシーランド・ジャズなどで使われる。
- ラテン・アメリカ(アンデス地域)に分布。かつてはアルマジロの甲羅が胴に用いられた。
- アラブおよびトルコで使われる。左右の人さし指に爪をつけて弾く。

- 中国の楽器。漢字では「古箏」と書く。
- 朝鮮半島の楽器。素手で弾く。
- 日本の楽器。(▶ p.36)
- 樺太アイヌの楽器。江戸時代には宗谷(北海道)のアイヌにもあった。
- 起源はヨーロッパ。北アメリカ(アパラチア山脈周辺)に持ち込まれて改良された。

考えてみよう 楽器と形の関係

世界のさまざまな弾く楽器を見てみると「遠く離れたところに分布しているのに形が似ている楽器」「形は似ていても弾き方が違う楽器」があります。下に示したキーワードを参考にして、その理由を考えてみよう。

- ・人や物の移動(流通, 貿易)
- ・楽器の材質
- ・生活様式